



金曾木 だより

台東区根岸4-16-22 TEL 03(3876)3701 FAX 03(3871)9507
<https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310218>

令和5年度 1月号
台東区立金曾木小学校
校長 細田 儀広
令和6年 1月 9日

「自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子 自分のよさを伸ばす子」

真似る～模倣する～

校長 細田 儀広

新年あけましておめでとうございます。年末、年始と今年は行動制限がほぼない状態で久しぶりにお正月気分を味わうことができたのではないのでしょうか。新型コロナウイルスの感染防止対策の3年間があった分、普通に過ごせる当たり前のことが、ありがたいことだと実感した年末年始となりました。あらためて、身近な幸せはあまりにも当たり前過ぎて、普段はなかなか気付けないものだと実感しました。今年、一年間も普段の何気ないことに感謝の気持ちを忘れずに生活をしていきたいです。

さて、この時期は新年を迎え一年間の抱負や目標を立てるかと思えます。目標は立てたけれど、いざ何をしたら良いのかよく分からないという人もいるかもしれません。私は、そんな時、誰かの真似をするようにしています。おそらく多くの大人の方は、成功者の体験談等から、自分のできそうなことを生活や仕事に取り入れているのではないのでしょうか。私も教員になった頃、「良い教師になるために」といった参考書を読んで実践してみたり、先輩教員の良いと思った点を真似したりするようになっていました。現在も、先輩校長の実践を自分なりに精査して真似するようにしています。

「形から入る」といいますが、正に、真似をするということは、「形から入る」ことだと思います。もちろん、その形には理論に裏付けられたエビデンスがありますが、そうした難しいことを初めから考えず、自分が良いと感じた形を真似してみることも、自分の理想に近づく一つのきっかけになるのではないのでしょうか。「学ぶ」という言葉は、名詞「真似」に動詞をつくる接尾語「ぶ」がついたものです。つまり「学ぶ」とは「真似る」（模倣する）という意味から始まっています。物事を「学ぶ」ためには、まずは模倣が出発点になるということを昔から経験的にわかっていたのだと思います。

しかし、何もかも真似（模倣）すれば良いというわけではありません。何の考えも無しに全て真似をするのは、意思がないロボットと同じです。何を真似するか、しないかはその個人の意思や考えが基となっています。形ばかりで中身がないのでは困りますが、真似をするうちに、真似をした行動の良さに気付いたり、真似によって自分に力が付いたりすることもあると思います。

日本人は、模倣する力に優れているという話を聞いたことがあります。明治維新や戦後、外国の文化を模倣して日本人はさらに優れたものをつくり出してきました。また、日本に古くから伝わる伝統技術は、師匠の真似をしながら、やがては師匠以上の職人となります。ぜひ、何からはじめたら良いかわからない人は、自分が理想としている人が何をしているのか、「いいな」と感じたことを自分に取り入れ真似（模倣）することをお勧めします。

今年は辰（竜）年です。画竜点睛（物事を成功させるために最後の仕上げをする）という言葉がありますが、令和5年度もいよいよ3学期を残すのみとなりました。4月より子どもたちが学んできたことの総仕上げの時期になります。教職員一同、子どもたちの健やかな成長のため、尽力してまいりますので、2024年もどうぞよろしくお願い致します。